

株式会社クエスト 2013年度決算説明会

2014年5月23日

株式会社クエスト
(JASDAQスタンダード 2332)
代表取締役社長 佐藤 和朗

本日のポイント

1. 売上高は、70億90百万円(前期比+4.7%)、営業利益は2億70百万円(前期比+6.2%)、経常利益は2億89百万円(前期比+8.1%)となった
2. 2013年度中期計画のテーマである「ビジネス構造改革と循環型成長サイクルの確立」及び「戦略的事業モデルの強化」に取り組み、着実な成果が得られた
3. 2014年度は売上高75億円、経常利益3億60百万円を計画。有望既存顧客への拡販と新規顧客の開拓、ソリューションビジネスの拡大により計画達成に取り組む

I. クエストについて

II. 2013年度 決算概要

III. 2013年度中期計画の進捗状況と 2014年度の取り組み

IV. 株主還元方針

I. 株式会社クエストについて

- 上場市場 東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード) 証券コード:2332
- 設立 1965年
- 代表者 代表取締役社長 佐藤 和朗
- 資本金 4億91百万円
- 事業内容 システム開発・保守、インフラサービス、
ビジネス・プロセス・アウトソーシング、IT Value-Upサービス
- 従業員 702名(2014年3月末 連結)
- 決算期 3月末
- 売上高 70億90百万円 (2014年3月期 連結)
- 経常利益 2億89百万円 (2014年3月期 連結)
- 所在地 東京都港区芝浦1-12-3 Daiwa芝浦ビル
- 関連会社 株式会社データ・処理センター
株式会社ドラフト・イン
慧徳科技(大連)有限公司(QUEST (DALIAN) CO.,LTD.)
- 認証資格 プライバシーマーク
ISO/IEC27001:2005

I. クエストについて

II. 2013年度 決算概要

III. 2013年度中期計画の進捗状況と
2014年度の取り組み

IV. 株主還元方針

Ⅱ. 2013年度 決算概要

◆ 連結損益の状況 前期実績・計画との比較

(単位:百万円)

	2013年度 実績	対前期比		対計画比	
		2012年度 実績	増減率	2013年度 計画	増減率
売上高	7,090	6,774	+4.7%	7,250	-2.2%
売上総利益	1,019	1,013	+0.6%	1,120	-9.0%
売上総利益率%	14.4%	15.0%	-0.6P	15.4%	-1.0P
営業利益	270	254	+6.2%	350	-22.7%
営業利益率%	3.8%	3.8%	+0.0P	4.8%	-1.0P
経常利益	289	268	+8.1%	360	-19.5%
経常利益率%	4.1%	4.0%	+0.1P	5.0%	-0.9P
当期純利益	166	177	-6.3%	200	-17.0%
EPS (円)	32.12	33.80	-5.0%	38.69	-17.0%

業績ハイライト

売上高(連結)は、70億90百万円、前期比4.7%増加
経常利益は、2億89百万円、前期比8.1%増加

■ 売上高 前期比 4.7%増

- 新規顧客(通信系)の開発案件獲得により増加
- 大手電機メーカーグループ等へのサービス領域拡大

■ 売上総利益 前期比 0.6%増 売上総利益率 0.6ポイント減

- 増収による売上総利益の増加
- 請負化に伴うサービスマネジメント工数の増加により利益率が低下

■ 営業利益 前期比 6.2%増 営業利益率 0.0ポイント増

■ 経常利益 前期比 8.1%増 経常利益率 0.1ポイント増

- 売上総利益の増加および販売管理費の抑制による

■ 当期純利益 前期比 6.3%減

- 復興特別法人税の廃止に伴う繰延税金資産の減少
- 関係会社の厚生年金基金脱退特別掛金の発生

セグメント別売上高

◆前期との比較

システム開発2.9%増加、インフラサービス8.2%増加

(単位:百万円)

	2013年度		2012年度		増減率
	実績	構成比	実績	構成比	
システム開発	3,622	51.1%	3,520	52.0%	+2.9%
インフラサービス	3,116	44.0%	2,880	42.5%	+8.2%
その他	350	4.9%	372	5.5%	-5.9%
合計	7,090	100.0%	6,774	100.0%	+4.7%

セグメント別売上高

◆前期との比較

システム開発2.9%増加、インフラサービス8.2%増加

(単位:百万円)

	2013年度		2012年度		増減率
	実績	構成比	実績	構成比	
システム開発	3,622	51.1%	3,520	52.0%	+2.9%

- ◆ 半導体、金融分野での取引好調
- ◆ 通信、医療分野の新規顧客より開発案件の獲得拡大
- ◆ ERP(MS Dynamics AX)技術者増員による受注体制強化
- ▼ 主要顧客グループにおけるIT投資案件の抑制が影響

セグメント別売上高

◆前期との比較

システム開発2.9%増加、インフラサービス8.2%増加

(単位:百万円)

	2013年度		2012年度		増減率
	実績	構成比	実績	構成比	
インフラサービス	3,116	44.0%	2,880	42.5%	+8.2%

- 大手電機メーカーグループへのサービス領域拡大
- SIベンダーやグローバルIT企業との協業による案件獲得拡大
- ▼ 主要顧客の投資抑制等により減少

連結貸借対照表

◆前期との比較

総資産が3億22百万円、7.2%増加

(単位:百万円)

	2013年度 期末	対前期比		コメント
		2012年度 期末	増減額	
資産合計	4,831	4,509	+322	
流動資産合計	3,681	3,429	+252	売掛金の増加(+238)
固定資産合計	1,150	1,079	+71	投資有価証券の増加(+102)
負債及び純資産合計	4,831	4,509	+322	
負債合計	1,210	870	+340	退職給付に係る未認識債務の計上(+147) 未払法人税の増加(+114)
純資産合計	3,621	3,638	-17	有価証券評価差額金(+65) 退職給付に係る調整累計額(-94)

連結キャッシュ・フロー

◆今期の特徴

現金及び現金同等物の期末残高は、前期比602百万円の減少

(単位;百万円)

	2013 年度	対前期比		コメント
		2012 年度	増減額	
営業活動によるCF	187	280	-92	売上債権の増加(-436) 引当金の増加(+110) 買掛金の増加(+122)
投資活動によるCF	-634	298	-932	定期預金預け入れ(-500) 有価証券の増減差額(-439)
財務活動によるCF	-157	-189	+31	自己株式取得の減少(+31)
現金及び現金同等物 の増減額	-602	389	-991	
現金及び現金同等物 の期末残高	1,525	2,127	-602	

連結子会社を含む内訳

◆前期との比較

クエスト単体がグループを牽引。データ・処理センターは業務を終了。

(単位;百万円)

	クエスト(単体)		データ・処理センター		ドラフト・イン	
	2013年度	2012年度	2013年度	2012年度	2013年度	2012年度
売上高	6,719	6,377	132	150	260	243
営業利益	262	214	9	30	-4	7
営業利益率%	3.9%	3.4%	7.3%	20.3%	-1.8%	3.0%
経常利益	314	261	10	30	-4	7
経常利益率%	4.7%	4.1%	8.3%	20.3%	-1.6%	3.2%

+5.4%

+22.8%

+20.4%

I. クエストについて

II. 2013年度 決算概要

III. 2013年度中期計画の進捗状況と 2014年度の取り組み

IV. 株主還元方針

Ⅲ. 2013年度の進捗状況

中期計画テーマ

2013年度の進捗と成果

ソリューション型 事業モデルの 創造、強化

- クエストERPソリューション
 - 大手グローバル広告代理店のAX導入案件獲得
 - MSセミナー参画等による顧客開拓強化
- 業務向けスマートソリューション
 - iPad、iPhoneのアプリ開発支援受注
 - 外部パートナーとの連携強化
- ITサービスマネジメントソリューション
 - ビーエスピー社との協業によるサービス拡大

アウトソーシング 事業の強化

- インフラアウトソーシングサービスの拡大
 - クラウドデータセンターサービスの開始
 - 企業向けセキュリティサービスの開始
- オフサイト・ニアショア保守サービスの拡大
 - 新規顧客への横展開、新規案件獲得
- オフショア(大連子会社)保守サービスの強化
 - 日本人技術者赴任による体制の強化

2014年度中期計画 事業環境の認識

マーケットの動向

- ITの「所有」から「利用」へのシフト鮮明
- クラウドコンピューティングの浸透
- アウトソーシング化の加速、進展
- スマートデバイスの急速な普及とネットサービス、ネットワークスタイルの拡大
- ビッグデータの活用
- プライバシー保護、セキュリティー強化

主要顧客の動向

- ビジネス/システムの共通プラットフォーム化
- 製造、サービス・間接業務のアウトソーシング化の徹底
- IT保守運用コストを削減し、新規分野に積極IT投資
- IT利用の変化(効率化 → 価値の創造)
- 金融業界は統合を実現し、大幅なコスト削減を経て、戦略投資に移行

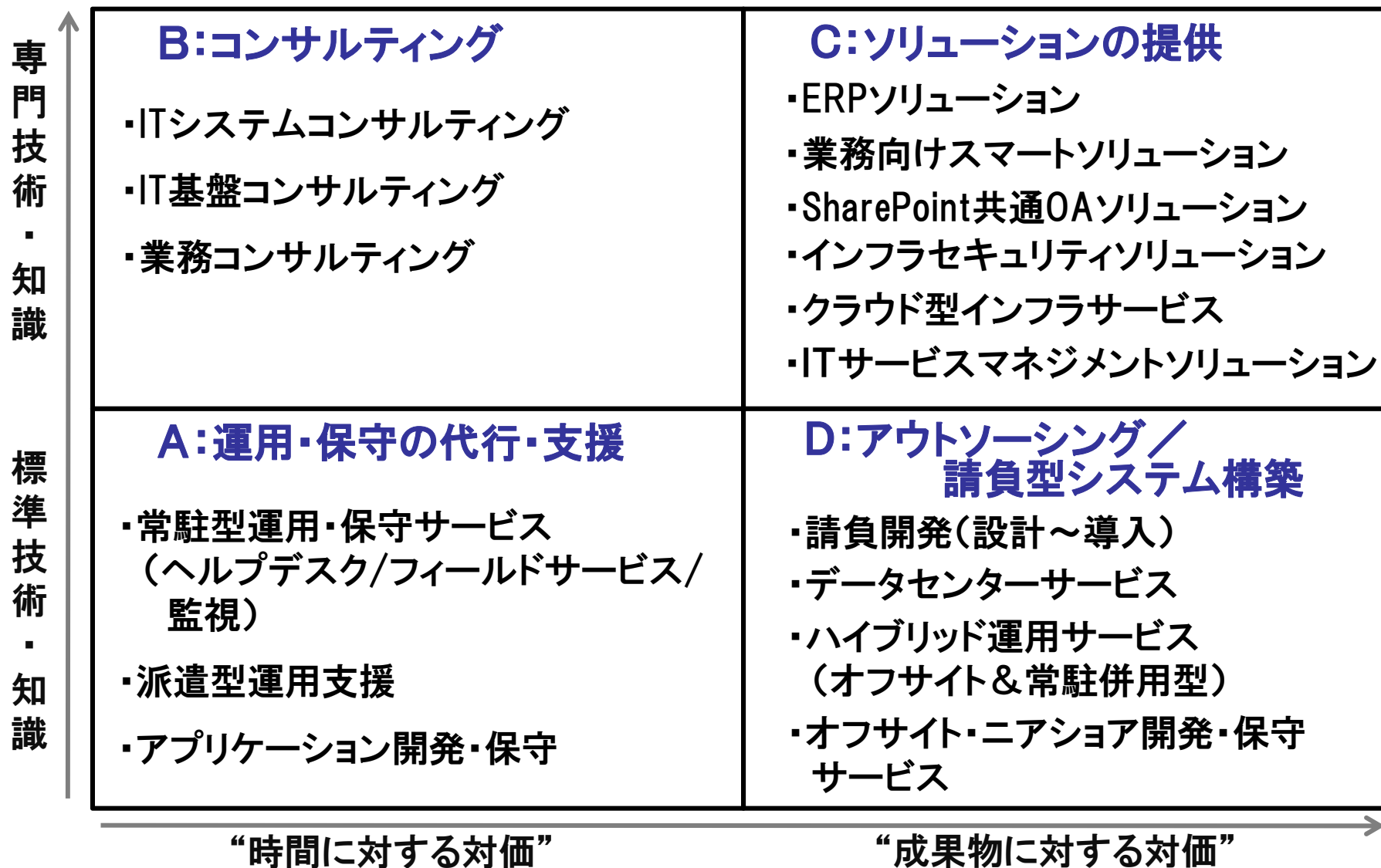
【クエストの中期方針 2014-2016】

成長し続ける、価値を創造し続ける連鎖を築く

1. 事業構造の変革
2. 産業ポートフォリオの変革
3. 事業体質の強化

1. 事業構造の変革

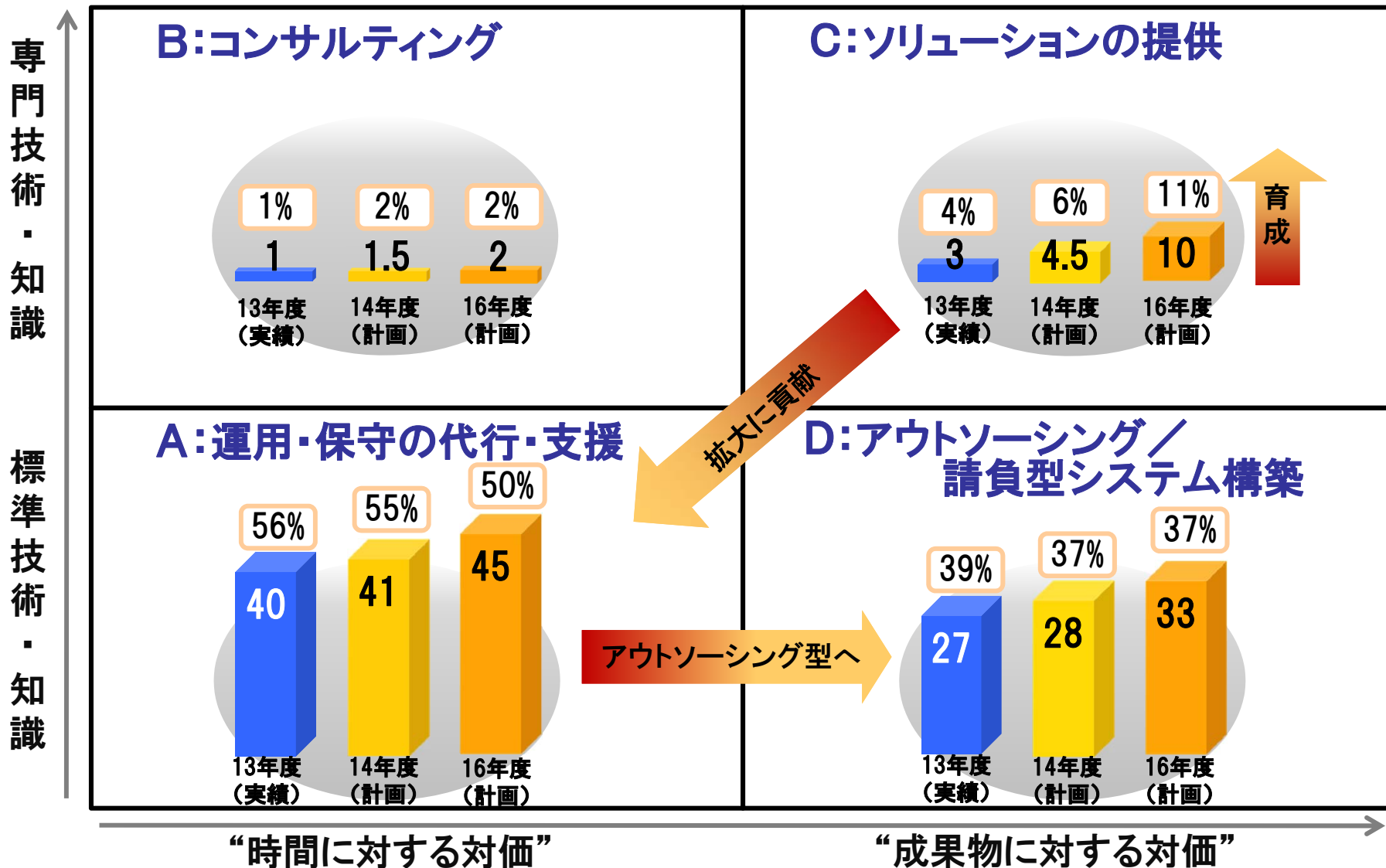
ビジネス・ポジショニング・マネジメントの追求



1. 事業構造の変革

連結売上高構成目標(億円)

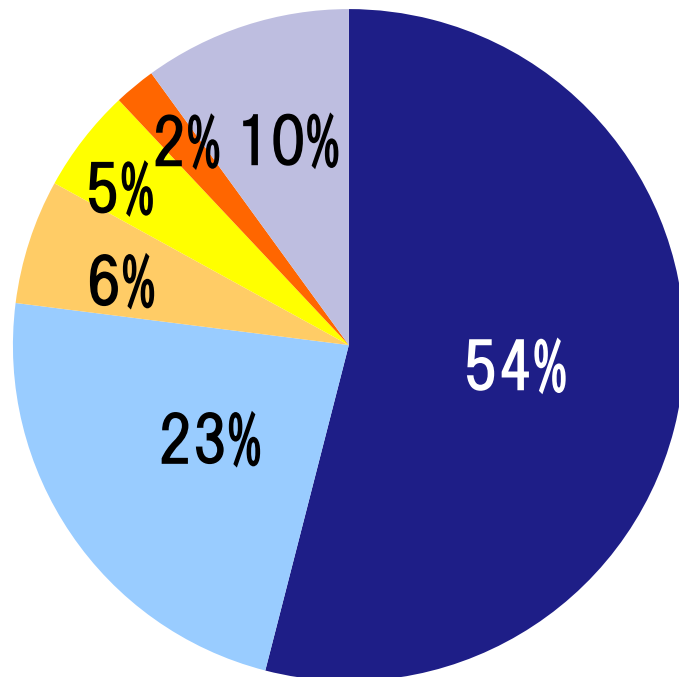
売上高比率



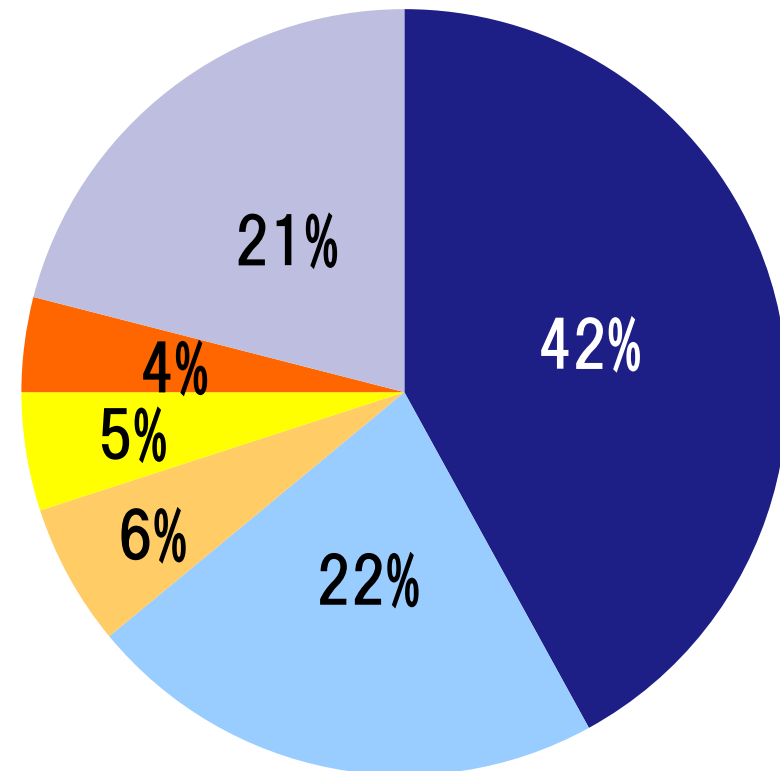
2. 産業ポートフォリオの変革

- 成長産業にフォーカスしたリソース投入による有望顧客の開拓
- グローバルITベンダーやSIerとの協業強化によるベースロードの確立

2013年度・実績



2016年度・計画



■ エレクトロニクス ■ 金融 ■ 通信 ■ エンタテインメント ■ 公共 ■ その他

3. 事業体質の強化

1) 品質管理体制の強化

- 請負サービスマネジメント
- アプリケーション開発、インフラ構築のプロジェクトマネジメント

2) クエストの技術やリソースを補完するパートナーマネジメントの強化

- ビジネスモデルを共有化し、戦略的にリソース提供
- 標準技術のリソース変動補完
- 請負委託(サービスマネジメント、プロジェクトマネジメント、システムマネジメント)

3) ソリューション事業、アウトソーシング事業の強化に向けた営業革新

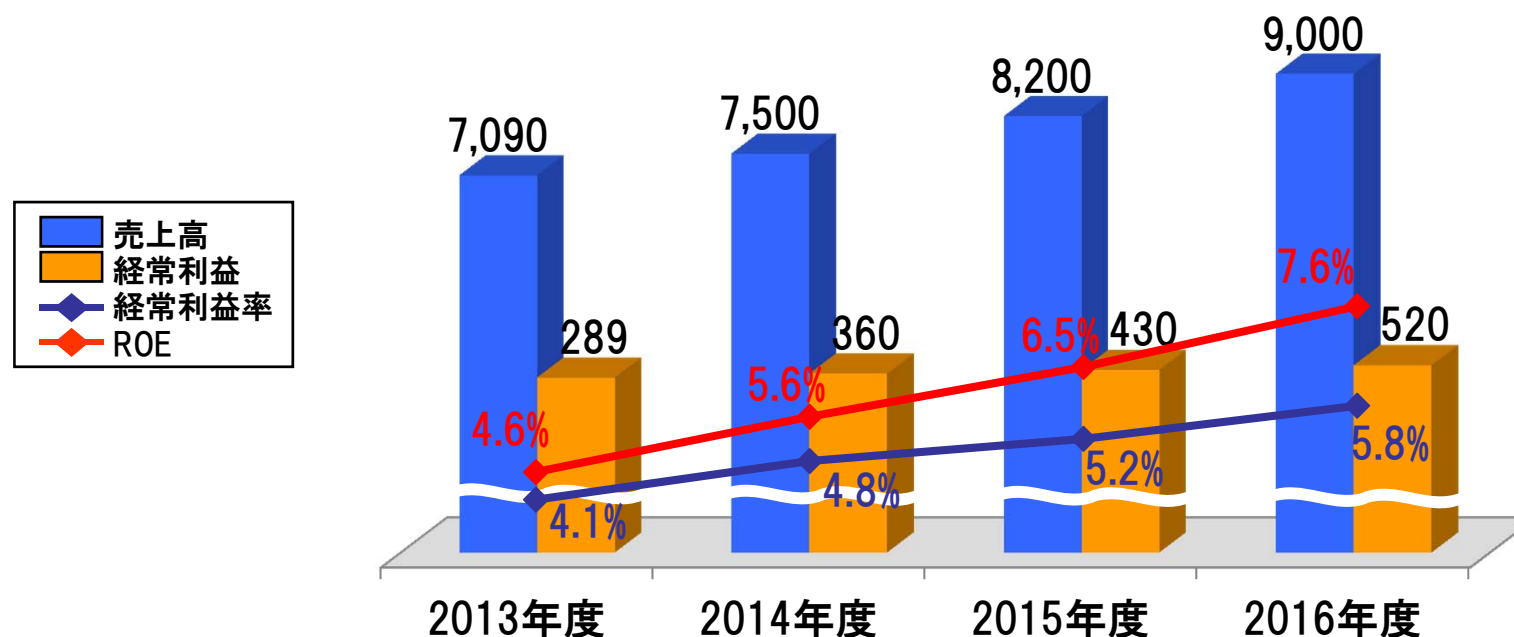
- 全社横断的な営業機能の新設(営業部)
- サービスラインナップに沿ったフォーカス営業
- アライアンス、協業強化による新規顧客の開拓

4) プロジェクトリーダー、プロジェクトマネジャの育成強化

- 採用強化、育成プログラム、ローテーションの仕組み、人事制度改革

Ⅲ. 2014-2016年度 中期計画 目標経営指標

経営指標		2013年度 (実績)	2014年度 (計画)	2015年度 (計画)	2016年度 (計画)
成長性 指標	売上高(百万円)	7,090	7,500	8,200	9,000
	経常利益(百万円)	289	360	430	520
	売上高増加率	+4.7%	+5.8%	+9.3%	+9.8%
	経常利益増加率	+8.1%	+24.2%	+19.4%	+20.9%
収益性 指標	経常利益率	4.1%	4.8%	5.2%	5.8%
	ROE	4.6%	5.6%	6.5%	7.6%



■ 成長目標 : 売上高9,000百万円、経常利益520百万円
■ 収益目標 : 経常利益率 1.7ポイントアップ、ROE 7.6%

I. クエストについて

II. 2013年度 決算概要

III. 2013年度中期計画の進捗状況と 2014年度の取り組み

IV. 株主還元方針

IV. 株主還元方針

～株主重視の経営の実現に向けて～

【株主還元方針】

株主のための企業という経営スタンスを従来より堅持するとともに、株主の皆様に対する安定的な利益還元の実施を経営の重要課題と位置づけ、業績の伸張に合わせて、将来の技術獲得や人材確保に向けた十分な内部留保を確保するとともに積極的な利益配分を行ってまいります

【剰余金配当金基本方針】

- ・ DOE*(純資産配当率)を指標に採用、連結DOE5.0%を目指す

【2013年度の株主還元施策】

- ・ 期末剰余金配当は、普通配当金1株当たり30円を予定
- ・ 2012年度実績 30円(DOE 4.3%)

(注) * : $DOE = \frac{\text{普通株式に係る1株当たり個別配当金(年間)}}{(\text{期首1株当たり純資産} + \text{期末1株当たり純資産}) \div 2} \times 100$



本日はありがとうございました

将来の見通しに関する注意事項

この資料に記載されている株式会社クエストの業績見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。

そのため、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠して投資判断を決定することは避けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご理解下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、世界情勢などが含まれます。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。